

第2回 ワーキンググループ長会議結果	
日時	平成24年12月27日(木) 14:00~16:00
場所	亀岡市役所 3階 302・303会議室
出席者	<p>推進協議会 会長 NPO法人 市民環境研究所 代表理事 石田 紀郎 " 副会長 亀岡市自治会連合会 会長 奥野 正三 " 副会長 亀岡市桂川改修促進期成同盟 委員長 古谷 弘志</p> <p>(水端かわまちづくりWG) 副グループ長 保津町自治会 会長 塚田 勇</p> <p>(ふれあいかわまちづくりWG) グループ長 神戸大学大学院工学研究科 教授 道奥 康治 副グループ長 篠町自治会 会長 牧野 吉明</p> <p>(にぎわい拠点整備WG) グループ長 京都市立芸術大学 教授 藤本 英子 副グループ長 亀岡市観光協会 事務局長 栗山 健</p> <p>(歴史・文化、自然再生WG) グループ長 京都大学大学院アソシアチブ地域研究研究科 教授 岩田 明久 副グループ長 亀岡市文化資料館 館長 黒川 孝宏</p> <p>(環境保全、情報発信WG) グループ長 NPO法人プロジェクト保津川 副代表理事 原田 禎夫 副グループ長 かめおか市民活動推進センター運営委員会 運営委員長 山口 助治 (欠席1名)</p> <p>(事務局) 京都府南丹土木事務所 河川砂防室 星野室長、井尻副室長、中主査 青木副主査、神原副主査 亀岡市桂川・道路整備課 並河課長、柴田参事、関口係長、竹村主査 (欠席0名) (順不同、敬称略)</p>
内容 (次第)	<p>1) 開会 2) 議事 ○各ワーキンググループの開催状況報告 ○意見交換(WG相互調整事項の確認、高水敷利活用の方向性等) ○桂川クリーン大作戦への参加について 3) 閉会</p>
結果	<p>○各WGの検討内容が報告され、グループ間で情報共有と意見交換を行った。 ○全体としての調整が必要な時期が来たため、WG長と事務局からなる作業部会で各WGの検討内容のすり合わせ作業を行い、計画図をひとつに統合して各WGにフィードバックしていくことになった。 (主な意見) 【水端かわまちづくりWGについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゃこ田周辺に計画している葦は繁茂が早く、魚の産卵場所に適した草丈の低い柔らかい植物の生育を阻害してしまうため、葦の勢力をコントロールする必要がある。 ・魚道の出口近くにアユモドキの親の住処がある方がよいので、魚道付近に根固ブロックなどの多孔質な構造物を設置してはどうか。 ・じゃこ田の参考事例として、耕作放棄地を湿地として活用している豊岡の田結地区を視察してはどうか。 ・じゃこ田と草原の間は風景としてつながっている方がよいと思うので、全体の動線計画なども考慮して駐車スペースを設けるかどうか再検討してほしい。 ・保津小橋周辺は映画やドラマの撮影場所として利用されており、今後もそうした風景を残してほしいという意見があるので、周辺の風景に配慮した計画にしてほしい。

【ふれあいかわまちづくりWGについて】

- ・花畑は維持管理の手間がかからないように自然の草花の上をフットパスで歩けるような整備方法も考えられる。
- ・花壇のような花畑だと排水対策や種苗代が必要になるので、湿地でも育つ菖蒲やススキを育てて、菖蒲園のようなイメージにしてはどうか。
- ・山本浜付近の展望デッキはデザイン上、山本浜の計画案との連携が必要である。
- ・トロッコ亀岡駅近くの駐車スペースは、全体の動線や周辺の既存の駐車場への影響を考慮した検討が必要である。
- ・余ったスペースを活用して所どころに浅い水溜まりをつくることによって、小動物が棲みつき、コウノトリが飛来するような自然環境にできるかもしれない。
- ・広場の地面は、利用形態に応じた整備レベルを検討する必要があるが、スポーツに利用するエリアは降雨後にしっかり排水される必要がある。
- ・両岸に多目的広場が計画されているので、全体計画をとりまとめる中でそれぞれをどのように位置づけるのか整理が必要である。
- ・来訪者のためのビジターセンターや、管理用機材を保管する管理拠点も必要だと思う。

【にぎわい拠点整備 WG について】

- ・全体の機能配置を踏まえて、保津川さくら広場にトイレが必要か検討してはどうか
- ・夏目漱石が乗船したことに因んだ石碑が現在の保津川下り乗船場に移設されているが、本来の場所である保津川さくら広場に移設し、歴史をたどれる場所にしてはどうか。

【歴史・文化、自然再生 WG について】

- ・上内膳や下内膳、亀の甲の調査で得られた資料を広場や展望デッキの解説板作成に活用していけると思う。

【環境保全・情報発信 WG について】

- ・今回の会議資料のような情報をタイミングよく公表することで様々な方に興味を持ってもらえるのではないかな。
- ・桂川クリーン作戦やほづがわチャリティ・ファンランといった取り組みとも連携し、環境保全と情報発信につなげていきたい。

【今後の進め方について】

- ・各WGで具体的な計画の検討が進み、全体としての調整を考える時期が来ている。全体のネットワークや駐車スペースやトイレの配置計画、土地利用計画などについて、WG間で協議・調整する必要がある。
- ・WG長と事務局からなる少人数の作業部会で計画のすり合わせ作業を行い、その結果を各WGにフィードバックしてはどうか。
- ・全体計画を考えていく上でのキーワードとして「連携」、「拠点シンボル」、「自然環境共生」が挙げられる。
- ・亀岡市にとってより良い計画になるよう、他の計画との整合性も考える必要がある。大規模スポーツ施設の建設とアユモドキの保全に保津川かわまちづくりがうまく連携できるように進めていきたい。

